

2 (3) 授業の質的改善のプロセス

ウ C校（第6学年）の実践

(7) 手引きを活用した授業の質的改善の推移

2 (2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立てに沿って、実際に授業の質的改善を図ったC校第6学年の実践を紹介します。まず、チェックリスト（図1）で改善をどこから始めるか決めました。

【チェックリスト】	
手引きを使う前に、以下の質問に答えてください。 toppage	
Q 1 社会科の単元づくりを、「問題解決的な学習」を意識して行っていますか？ ※「問題解決的な学習」とは、「①社会的事象と出会う ②学習問題を見いだす ③予想や学習計画を考える ④予想や学習計画に基づいて追究する ⑤調べて分かったことや考えたことをまとめる ⑥新たな問題を見いだす」 の学習展開で構成された単元計画とします。	A : 行っていない さあ、授業改善のスタート。 まずは、簡単なチェック！ 自分のスタートラインはどこ だろう？クリックしよう。 注意：画像はイメージです。リンクしていません。
Q 2 次の項目に幾つ当てはまりますか。 ☒ 児童の「あれ？」「どうしてかな？」「こうなん 疑問や予想を引き出している。 ☒ 学習問題を児童の言葉を引き出しなが	A : 行っている → Q 2 へ
Q 3 次の項目に幾つ当てはまりますか。 ☒ 学習問題を解決するために、何を調べるとよ ☒ 学習問題を解決するために、どんな方法で調べ いる。 ☐ 学習問題の答えを予想させている。	A : 2つ当てはまる。 → Q 3 へ A : 1つ当てはまる。 Click
Q 4 次の項目に幾つ当てはまりますか。 ☐ 調べることを明らかにして、調べ学習ができるようにしている。 ☐ 調べたことを、ペアやグループ、学級全体で共有するようにしている。 ☐ 調べたことをもとに、考えることができるようにしている。 ☐ 考えたことを、ペアやグループ、学級全体で交流するようにしている。	A : 3つ当てはまる。 → Q 4 へ A : 0又は1つ～2つ当てはまる。 Click

図1 チェックリスト

指示された「手引き」のページ



学習過程 観点	課題把握		課題追究		課題解決		新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り	
知識			(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。□⇒C①②③④⑤ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて（つなげて）、記述することができる。□⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⇒D①⑥⑩ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して（まとめて）、記述することができる。□⇒C①②③④⑤⇒D①⑧⑨⑩⑪⇒E①②③④				
技能 (収集する 読み取る まとめる)			(1) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために必要な資料を集めることができる。□⇒C①②③ (2) その資料がどのような資料分かっている。□⇒C⑥⑦⑧ (3) 事実を正確に読み取っている。□⇒C④⑤⑥⑦⑧ (4) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。□⇒B①⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。□⇒C⑥⑦⑧⑨⑩				
思考・ 判断・ 表現	(1) 資料を基に気付きをもつことができる。□ ⇒A①② (2) 資料を基に疑問をもつことができる。□ ⇒A①②③ (3) 疑問に対して、予想を考えることができる。□ ⇒A⑤⑥ (4) 気付きや疑問から、キーワード（問い）をつくることができる。□ ⇒A④⑤⑥⑦ (5) キーワード（問い）を関連付けて、大きな問いをつくることができる。□ ⇒A④⑦⑧⑨	(1) 学習問題に対して、予想を考えることができる。□ ⇒B① (2) 自分が調べたいことを考えることができる。□ ⇒B①② (3) 学習問題を解決するために、何をどのような方法で調べるとよいか、具体的に考えることができる。□ ⇒B①②③					
主体的に学習に取り組む態度	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいか見通しをもっている。□⇒B①②③⇒C①②③ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているのか理解している。□⇒B①②③⇒C①②③④ (3) 社会的事象について、実感や切実感をもって調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。□⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ (4) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。□A①⇒F①②③④						

学級全体と抽出児（図 1）の分析を基に、三つの資質・能力「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が身に付いたのかどうかを検証しました。検証においては、新しい評価の 3 つの観点に沿って分析・考察します。ただし、「知識・技能」は、現行の評価の観点「社会的事象についての知識・理解」と「観察・資料活用 of 技能」として、「主体的に学習に取り組む態度」は、現行の評価の観点「社会的事象への関心・意欲・態度」とほぼ同じと捉えて、評価・分析することにしました（表 1）。

N 児	
	社会的事象への関心が高い。 話し合いなどでは積極的に発言をする方ではないが、友達の意見を参考にしながら、自分の考えを表現することができる。

図 1 抽出児のプロフィール

表 1 新学習指導要領と現行の学習指導要領の評価の観点

新学習指導要領	現行の学習指導要領
知識・技能	社会的事象についての知識・理解
	観察・資料活用 of 技能
思考・判断・表現	社会的な思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象への関心・意欲・態度

【実践 1】 6 月～7 月実践

学習過程 観点	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
知識			(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。☑⇒C①②③④⑤ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて（つなげて）、記述することができる。☐⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⇒D①⑨⑩ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して（まとめて）、記述することができる。☐⇒C①②③④⑤⇒D①⑧⑨⑩⇒E①②③④			
技能 (収集する 読み取る まとめる)			(1) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために必要な資料を集めることができる。☑⇒C①②③ (2) その資料がどのような資料に分かっている。☑⇒C⑥⑦⑧ (3) 事実を正確に読み取っている。☑⇒C④⑤⑥⑦⑧ (4) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。☐⇒B①⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。☐⇒C⑥⑦⑧⑨⑩			
思考・ 判断・ 表現	(1) 資料を基に気付きをもつことができる。☐ ⇒A①② (2) 資料を基に疑問をもつことができる。☐ ⇒A①②③ (3) 疑問に対して、予想をすることができる。☐ ⇒A⑤⑥ (4) 気付きや疑問から、キーワード（問い）をつくることができる。☐ ⇒A④⑤⑥⑦ (5) キーワード（問い）に関連付けて、大きな問いをつくることができる。☐ ⇒A④⑦⑧⑨	(1) 学習問題に対して、予想をすることができる。☐ ⇒B① (2) 自分が調べたいことを考えることができる。☐ ⇒B①② (3) 学習問題を解決するために、何をどのような方法で調べるとうい、具体的に考えることができる。☐ ⇒B①②③	(1) 本時で分かったことを基に、学習問題の解決のために次から何を調べるとうい、考えることができる。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	(1) 調べた事実を基に、考えられることを導き出すことができる。☐ ⇒C⑩⇒D①②③ (2) 資料を使って意見を述べたり、記述したりすることができる。☐ ⇒D②③④⑤ (3) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考慮することができる。☐ ⇒D④⑤⑥⑦ (4) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えた上で、一番重視したい立場を選択することができる。☐ ⇒D④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	(1) これまでに学習してきたことを基に、自分の考えをもつことができる。☐ ⇒E①②③④ (2) 友達の考えを比較・関連付け、意見を述べたり、記述したりすることができる。☐ ⇒E①②③④	(1) 学習した内容から似た事象や当てはまりそうな事象がないか考えることができる。☐ ⇒F④ (2) 新たに調べたいことを考えることができる。☐ ⇒F①②③
主体的に学習 に取り組む 態度	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよい見通しをもっている。☑⇒B①②③⇒C①②③④ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているのか理解している。☐⇒B①②③⇒C①②③④ (3) 社会的事象について、実感や切実感をもって調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。☐⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ (4) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。☐A①⇒F①②③④					

☑ …できていると判断した児童の姿

☐ …今月実践の単元で目指す児童の姿

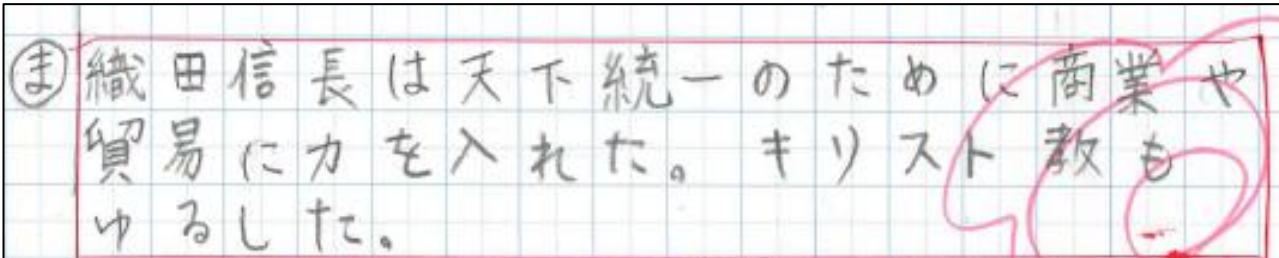
学習過程 観点	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
手立て	A①身近なことを題材に挙げる。☐ A②資料提示の工夫（資料の一部を隠すなど）を行う。☐ A③題材に対して気付きや疑問をもたせる。☐ A④気付きや疑問を教師が意識的に仲間（キーワード）分けして板書する。☐ A⑤気付きや疑問に対して、問い返しをしながら、児童に予想を出させる。☐ A⑥自分の考えをもちやすい場面（予想など）で、自分と相手の意見が同じか違いか考えさせながら対話させる。☐ A⑦気付きや疑問を基に、調べていきたいことを考えさせる。☐ A⑧調べていきたいことを学習問題として書かせる。☐ A⑨個別にもった学習問題を全体で交流し、学習問題を設定する。☐	B①学習問題の解決のために何を調べるとよいのかを考えさせる。☐ B②調べるとよいと考えたことをグループで話し、何から調べたらよいと考えさせる。☐ B③学習問題の解決のために何を調べるとよいのか調べる方法を考えさせる。☐	C①学習問題を確認する。☐ C②調べたことを図や表に表し、単元全体を見通すことができるようにする。☑ C③学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる。☑ C④調べた内容（視点）を確認する。☑ C⑤調べる内容について、予想をさせる。☑ C⑥資料（写真、教科書等の文章等）を一つずつ確認し、どのようなことが分かる資料なのか考えさせる。☑ C⑦教師が指示した資料で調べさせる。☐ C⑧立場ごとに、資料を分けて提示する。☐ C⑨様々な資料を見せ、読み取りの視点を増やす。☐ C⑩学習問題や学習課題（本時のめあて）の解決に必要な情報であるのか考えさせる。☐ C⑪調べた内容をペアやグループで伝え合わせ、確認させる。☐ C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。☐ C⑬学習問題について、学習課題（本時のめあて）とのつながりを考えて記述させる。☐	D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。☑ D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。☐ D③根拠となる資料を確認する。☐ D④話し合いの目的・ゴールを示す。☐ D⑤考えをペアやグループで伝え合わせる。☐ D⑥視点を基に、考えをもたせる。☐ D⑦視点同士を比較させ、考えをもたせる。☐ D⑧まとめ方を例示する。☐ D⑨キーワードを挙げる。☐ D⑩まとめ方に関する判定基準を示す。☐ D⑪掲示物を活用し、これまでの学習を振り返らせる。☐	E①単元全体のまとめ方を例示する。☐ E②キーワードを挙げる。☐ E③単元全体のまとめ方に関する判定基準を示す。☐ E④ノートやワークシート、掲示物などを活用し、これまでの学習を振り返らせる。☐	F①新たな学習問題を提示する。☐ F②社会問題を含んだ資料を提示し、学習問題を設定する。☐ F③ゲストティーチャーに新たな学習問題につながる情報を話してもらふ。☐ F④学んだことと自分たちの生活（自分にできること）をつなげて考えさせる。☐

☑ …現在取り入れていると判断した手立て

☐ …今月実践の単元で取り入れることを決定した手立て

単元「3人の武将と天下統一」

目指す姿（知識）
個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて（つなげて）、記述することができる。
取り入れる手立て（手引きの記号、番号）
事実を調べさせた後に、意味を問う発問を段階的に行う。（D①）

児童のワークシートの記述を基に、以下のA, B, Cの判定基準で評価を行った。※欠席：3名 A 「天下統一」と「味方を増やす」「武器を買う」などの個別の事象を関連付けて記述している。【9名】 B 「天下統一」「武器を買う」「味方を増やす」などの個別の事象を一つ、または箇条書きにして記述している。【18名】 C Bに達していない。【7名】
【抽出児の記述】

【考察】
全体的に、織田信長が行ったことを基に「天下統一をするため」ということまでは記述できていると考える。しかし、社会的事象の本当の意味理解のためには、織田信長が行った楽市・楽座などの資金調達、他大名を倒すことなどと天下統一とをつなげて考えさせる必要があると考える。そのためには、楽市・楽座などの資金調達は武器を買うため、武器を買ったのは敵を倒すため、敵を倒すのは天下統一のためなど、今回の授業以上に社会的事象とその意味を細分化して発問を行う必要があると考える。また、資料や史実から分かることをより丁寧に扱う必要がある。さらに、N児のように「天下統一するため」という総合した言葉を記述したり発言したりしている場合は、本当に理解しているかどうか確かめるために、「具体的にはどのようなことか」など問い返すことも必要と考えられる。

目指す姿（主体的に学習に取り組む態度）
今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているか理解している。
取り入れる手立て（手引きの記号、番号）
学習問題を確認する。（C①） （学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる。）


児童の行動観察の記録を基に、評価を行った（授業ビデオ）。※欠席：3名

- ・発問「今日は何を調べますか？」に対し、ほとんどの児童が、掲示している「学習計画」を指して、調べる内容を発言している。
- ・追究活動の際は、ほとんどの児童が、本時で調べるところに該当する教科書や資料集のページを開いて調べたり、発言したりしている。

【考察】

児童の行動観察の記録から、ほとんどの児童が本時に調べるところを意識して学習に取り組んでいたと考える。学習問題と学習計画を掲示していたことで、児童の主体的な学びの姿を見取ることができた。ただ、一部の児童は友達から促されて教科書の該当ページを探したり、調べる内容を確認したりしているので、一人一人がどこを学習するのか分かるように、調べたところには印を付けさせたり、解決したことを書き込ませたりすることも必要である。

単元「江戸幕府と政治の安定」

目指す姿（技能）

学習問題や学習の課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。

取り入れる手立て（手引きの記号、番号）

資料（写真、教科書等の文章等）を一つずつ確認し、どのようなことが分かる資料なのか考えさせる。（C⑥）

学習問題や学習課題（本時のめあて）の解決に必要な情報であるのか考えさせる。（C⑩）



児童のワークシートの記述を基に、以下のB、Cの判定基準で評価を行った。※欠席：2名

（※指導に生かすための形成的な評価をしている。また児童のつぶやきや発言などから、「十分満足できる」状況（A）と判断できた児童に関しては、記録に残し、単元における総括の評価の参考とする。）

B 資料（絵など）から分かる事実を記述している。【32名】

C Bに達していない。【3名】

【抽出児の記述】

☆人々はどんな暮らしをしていたのかな？考えたり教科書で調べたりしてみよう。

自分で

人々は 町を治めたり、何かをつくり、農業・商人の仕事をし、百姓たちは、山や海からの自然を受けてくらしていた。江戸時代の人々の80%以上の人は何か仕事をしてくらしていた。

【考察】

調べやすいように資料を一つずつ確認したことで、児童は調べることを意識しやすかったのではないかと考える。35名中32名の児童が、N児のように、資料（絵など）を見て、何を表している資料か、資料に表されている情報等はどのようなことか記述することができていた。C⑥とC⑩の手立ては、有用な情報を選んで読み取らせる上で効果的であったと考える。

6 月～7 月の実践を終え、チェックリストで 1 学期の実践を振り返りました。

Q 2
次の項目に幾つ当てはまりますか。

☒ 児童の「あれ?」「どうしてかな?」「こうなんじゃないかな?」といった疑問や予想を引き出している。
☒ 学習問題を児童の言葉を引き出しながらかついている。

A: 2つ当てはまる。  Q 3 へ

A: 0 又は 1 つ当てはまる。 

Q 3
次の項目に幾つ当てはまりますか。

☒ 学習問題を解決するために、何を調べるとよいのか見通しをもたせている。
☒ 学習問題を解決するために、どんな方法で調べるとよいのか見通しをもたせている。
☒ 学習問題の答えを予想させている。

A: 3つ当てはまる。  Q 4 へ

A: 0 又は 1 つ～2 つ当てはまる。 

Q 4
次の項目に幾つ当てはまりますか。

☒ 調べることを明らかにして、調べ学習ができるようにしている。
☒ 調べたことを、ペアやグループ、学級全体で共有するようにしている。
☐ 調べたことをもとに、考えることができるようにしている。
☐ 考えたことを、ペアやグループ、学級全体で交流するようにしている。

A: 4つ当てはまる。  Q 5 へ

A: 2つ～3つ当てはまる。 

指示された「手引き」のページ

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
知識			(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。□⇒C①②③④⑤ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて(つなげて)、記述することができる。□⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して(まとめて)、記述することができる。□⇒C①②③④⑤⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⇒E①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩			
技能 (収集する 読み取る まとめる)			(1) 学習問題や学習課題(本時のめあて)を解決するために必要な資料を集めることができる。□⇒C①②③ (2) その資料がどのような資料に分かっている。□⇒C⑥⑦⑧ (3) 事実を正確に読み取っている。□⇒C④⑤⑥⑦⑧ (4) 学習問題や学習課題(本時のめあて)を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。□⇒B①⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。□⇒C⑥⑦⑧⑨⑩			
思考・ 判断・ 表現	(1) 資料を基に気付きをもつことができる。□ ⇒A①② (2) 資料を基に疑問をもつことができる。□ ⇒A①②③ (3) 疑問に対して、予想を考えることができる。□ ⇒A⑤⑥ (4) 気付きや疑問から、キーワード(問い)をつくることができる。□ ⇒A④⑤⑥⑦ (5) キーワード(問い)を関連付けて、大きな問いをつくることができる。□ ⇒A④⑦⑧⑨	(1) 学習問題に対して、予想をすることができる。□ ⇒B① (2) 自分が調べたいことを考えることができる。□ ⇒B①② (3) 学習問題を解決するために、何をどのような方法で調べるとよいのか、具体的に考えることができる。□ ⇒B①②③	(1) 本時で分かったことを基に、学習問題の解決のために次から何を調べるとよいか考えることができる。□ ⇒C①②③④⑤	(1) 調べた事実を基に、考えられることを導き出すことができる。□ ⇒C②⇒D①②③ (2) 資料を使って意見を述べたり、記述したりすることができる。□ ⇒D②③④⑤ (3) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えることができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦ (4) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えた上で、一番重視したい立場を選択することができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	(1) これまでに学習してきたことを基に、自分の考えをもつことができる。□ ⇒E①②③④ (2) 友達のを考えを比較・関連付け、意見を述べたり、記述したりすることができる。□ ⇒E①②③④	(1) 学習した内容から似た事象や当てはまりそうな事象がないか考えることができる。□ ⇒F④ (2) 新たに調べたいことを考えることができる。□ ⇒F①②③
主体的に学習に 取り組む 態度	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいのか見通しをもっている。□⇒B①②③⇒C①②③ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているのか理解している。□⇒B①②③⇒C①②③④ (3) 社会的事象について、実感や切実感をもって調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。□⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ (4) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。□A①⇒F①②③④					

【実践 2】 9 月実践

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
知識			(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。✓⇒C①②③④⑤ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて（つなげて）、記述することができる。✓⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して（まとめて）、記述することができる。□⇒C①②③④⑤⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺			
技能 (収集する 読み取る まとめる)			(1) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために必要な資料を集めることができる。✓⇒C①②③ (2) その資料がどのような資料が分かっている。✓⇒C⑥⑦⑧ (3) 事実を正確に読み取っている。✓⇒C④⑤⑥⑦⑧ (4) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。□⇒B①⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。□⇒C⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺			
思考・ 判断・ 表現	(1) 資料を基に気付きをもつことができる。□ ⇒A①② (2) 資料を基に疑問をもつことができる。□ ⇒A①②③ (3) 疑問に対して、予想をすることができる。□ ⇒A⑤⑥ (4) 気付きや疑問から、キーワード（問い）をつくることができる。□ ⇒A④⑤⑥⑦ (5) キーワード（問い）に関連付けて、大きな問いをつくること ことができる。□ ⇒A④⑦⑧⑨	(1) 学習問題に対して、予想を 考えることができる。✓ ⇒B① (2) 自分が調べたいことを考 えることができる。□ ⇒B①② (3) 学習問題を解決するた めに、何をどのような方法で 調べるとよいか、具体的に 考えることができる。□ ⇒B①②③	(1) 本時で分かったことを基 に、学習問題の解決のために 次から何を調べるとよいか考 えることができる。□ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	(1) 調べた事実を基に、考えら れることを導き出すことがで きる。□ ⇒C⑩⇒D①②③ (2) 資料を使って意見を述べた り、記述したりすることがで きる。□ ⇒D②③④⑤ (3) 様々な立場や視点ごとに、 メリット・デメリットを考 えることができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦ (4) 様々な立場や視点ごとに、 メリット・デメリットを考 えた上で、一番重視したい立 場を選択することができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	(1) これまでに学習してき たことを基に、自分の考 えをもつことができる。□ ⇒E①②③④ (2) 友達のを考えを比較・関 連付け、意見を述べたり、 記述したりすることがで きる。□ ⇒E①②③④	(1) 学習した内容から似た事 象や当てはまりそうな事 象がないか考えることが できる。□ ⇒F④ (2) 新たに調べたいことを考 えることができる。□ ⇒F①②③
主体的に学 習に取り組 む態度	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいか見通しをもっている。✓⇒B①②③⇒C①②③ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているのか理解している。✓⇒B①②③⇒C①②③④ (3) 社会的現象について、実感や切実感をもって調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。□⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ (4) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。□A①⇒F①②③④					

✓ …できていると判断した児童の姿

□ …今月実践の単元で目指す児童の姿

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
手 立 て	A①身近なことを題材に挙げる。 □ A②資料提示の工夫（資料の一部 を隠すなど）を行う。□ A③題材に対して気付きや疑問をも たせる。□ A④気付きや疑問を教師が意識的 に仲間（キーワード）分けて 板書する。□ A⑤気付きや疑問に対して、問い返 しをしながら、児童に予想を出さ せる。□ A⑥自分の考えをもちやすい場面 （予想など）で、自分と相手の 意見が同じか違うか考えさせな がら対話させる。□ A⑦気付きや疑問を基に、調べてい きたいことを考えさせる。□ A⑧調べていきたいことを学習問題 として書かせる。□ A⑨個別にもった学習問題を全体 で交流し、学習問題を設定す る。□	B①学習問題の解決のために何を 調べるとよいかを考えさせる。 □ B②調べるとよいか考えたことをグル ーピングし、何から調べたらよ いか考えさせる。□ B③学習問題の解決のために何を 調べるとよいか調べの方法を 考えさせる。□	C①学習問題を確認する。✓ C②調べたことを図や表に表し、単 元全体を見通すことができるよ うにする。✓ C③学習問題と学習計画を教室 内に掲示し、常に振り返らせ る。✓ C④調べた内容（視点）を確認す る。✓ C⑤調べた内容について、予想をさ せる。✓ C⑥資料（写真、教科書等の文章 等）を一つずつ確認し、どのよ うなことが分かる資料なのか考 えさせる。□ C⑦教師が指示した資料で調べさ せる。□ C⑧立場ごとに、資料を分けて提 示する。□ C⑨様々な資料を見せ、読み取り の視点を増やす。□ C⑩学習問題や学習課題（本時 のめあて）の解決に必要な情 報であるのか考えさせる。□ C⑪調べた内容をペアやグルー プで伝え合わせ、確認させる。□ C⑫調べた内容について、問い返 して、事実を相互に関連付け て考えさせる。□ C⑬学習問題について、学習課題 （本時のめあて）どのつながりを 考えて記述させる。□	D①事実を調べた後に、意味を問 う疑問を段階的に行う。□ D②調べた事実と考えを明確に 分けさせる。□ D③根拠となる資料を確認する。 □ D④話し合いの目的・ゴールを示 す。□ D⑤考えをペアやグループで伝え 合わせる。□ D⑥視点を基に、考えをもたせる。 □ D⑦視点同士を比較させ、考えを もたせる。□ D⑧まとめ方を例示する。□ D⑨キーワードを挙げる。□ D⑩まとめ方に関する判定基準を 示す。□ D⑪提示物を活用し、これまでの 学習を振り返らせる。□	E①単元全体のまとめ方を 例示する。□ E②キーワードを挙げる。□ E③単元全体のまとめ方に 関する判定基準を示 す。□ E④ノートやワークシート、掲 示物などを活用し、これ までの学習を振り返らせ る。□	F①新たな学習問題を提示す る。□ F②社会的問題を含んだ資料 を提示し、学習問題を設 定する。□ F③ゲストティーチャーに新た な学習問題につながる情 報を話してもらう。□ F④学んだことと自分たちの生 活（自分にできること）とを つなげて考えさせる。□

✓ …現在取り入れていると判断した手立て

○ …今月実践の単元で取り入れることを決定した手立て

単元「町人の文化と新しい学問」

目指す姿（思考・判断・表現）
調べた事実を基に、考えられることを導き出すことができる。
取り入れた手立て（手引きの記号、番号）
事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。（D①） 調べた事実と考えを明確に分けさせる。（D②） 調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。（C⑫）※当初、手引きの指示になかった手立て

児童のワークシートの記述を基に、以下のA、B、Cの判定基準で評価を行った。※欠席：5名 A 複数の調べた事実を根拠として、自分の考えを記述している。【0名】 B 調べた事実を根拠として、自分の考えを記述している。【2名】 C Bに達していない。【30名】
【抽出児】 未記入
【考察】 蘭学について調べさせた後に、D①の手立てを行った。「蘭学を学んだ人たちは、どのようなことを考えていたのだろう」と発問し、蘭学を学ぶ人たちの思いを考えさせたかったが、児童たちには「蘭学についての事実」と「蘭学を学んだ人たちの思い」がかけ離れたことで、蘭学についての事実を基に蘭学を学んだ人たちの思いを考えることができなかつたと考えられる。D①の手立てを十分に機能させることができなかつた。よって、本来は考えさせるべき「蘭学を学んだ人たちの思い」まで調べさせてしまった。また、考えるヒントとなるように、教科書の記述に注目させ過ぎてしまったことも課題である。その後、「蘭学とはどのような学問と言えるか」と発問したが、蘭学についてのキーワードを抽出できずに、考えをもたせることはできなかつた。次単元では、まず「事実」と「考え」の区分を明確にもたせることと、事実から飛躍して考えないようにさせることを意識したい。

目指す姿（技能）
学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。
取り入れた手立て（手引きの記号、番号）
学習問題の解決のために、何を調べるとよいのかを考えさせる。（B①） 調べる資料（教科書・資料集）に一度目を通させる。（☆手引きに掲載していない手立て）

児童のワークシートの記述を基に、以下のB、Cの判定基準で評価を行った。※欠席：3名 （※指導に生かすための形成的な評価をしている。また児童のつぶやきや発言などから、「十分満足できる」状況（A）と判断できた児童に関しては、記録に残し、単元における総括の評価の参考とする。） B 町人の文化や学問に関わる資料について、資料が表していることを調べている。【10名】 C Bに達していない。【24名】

【抽出児の記述】	どのようなこと？ 古くから^{方言}の石研究 ↓ 社会、政治に目を向け政治を行う人の心かまえ 考えたこと 上の人をたおす 幕府をたおす	
【考察】	本居宣長の業績について調べさせた。資料が何を表したものの理解はできているが、その資料に関係があることを教科書等の記述から見付けて記述することが難しい様子だった。N児のように、教科書等から情報を読み取ることができなかった児童が 34 名中 24 名いた（N児は、友達の発表を聞いてワークシートに書き加えることができた）。前単元までは教科書の記述から調べさせるために穴埋め形式のワークシートを使用させていたが、この単元から資料の説明をして、調べてほしいことに発問等で注目させてから調べる学習活動を行わせた。しかし「教科書等の記述を読む」「内容について理解する」「その中から資料と関わることを見つけ出す」「内容を要約して表現する」という思考が短時間では難しかったと考えられる。次単元は児童が教師の発問等に頼らず自分たちで調べていけるように、B①の手立てを継続して取り入れるとともに、ワークシートに「調べること」のヒントとなる文言を記入しておく。	

目指す姿（思考・判断・表現）
自分が調べたいことを考えることができる。
取り入れた手立て（手引きの記号、番号）
学習問題の解決のために、何を調べるとよいのかを考えさせる。（B①）
単元で学習する内容の一部（資料）を見せて学習問題をつくる。（☆手引きに掲載していない手立て）
↓
児童のワークシートの記述を基に、以下のA, B, Cの判定基準で評価を行った。※欠席：3名 A 町人の文化や学問について、知りたいことや調べたいことを複数記述している。【27名】 B 町人の文化や学問について、知りたいことや調べたいことを1つ記述している。【6名】 C Bに達していない。【1名】
【抽出児の記述】 ○風景画は何人で書いたのか。○日本地図はどのようにして作ったのか。○解体図はどのように描いたのか。
【考察】 B①の手立て「学習問題を解決するために、何を調べるとよいのかを考えさせる」を取り入れた。また、単元で学習する内容の一部を見せて学習問題をつくった。ほとんどの児童が、町人の文化や学問について、知りたいことや調べたいことを記述することができた。B①の手立てをより効果的に機能させるために、単元で学習する内容の一部（資料）を見せたのも効果的であったと考える。次単元以降も、児童に調べる意欲をもたせるために、B①の手立てに加えて、単元の内容を一部見せて学習問題をつくるようにする。

【実践 3】10 月実践

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
知識			(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。⇒C①②③④⑤ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて（つなげて）、記述することができる。⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⇒D①②③④ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して（まとめて）、記述することができる。⇒C①②③④⑤⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⇒E①②③④			
技能 (収集する 読み取る まとめる)			(1) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために必要な資料を集めることができる。⇒C①②③ (2) その資料がどのような資料に分かっている。⇒C⑥⑦⑧ (3) 事実を正確に読み取っている。⇒C④⑤⑥⑦⑧ (4) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。⇒B①⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。⇒C⑥⑦⑧⑨⑩			
思考・ 判断・ 表現	(1) 資料を基に気付きをもつことができる。□ ⇒A①② (2) 資料を基に疑問をもつことができる。□ ⇒A①②③ (3) 疑問に対して、予想を考えることができる。□ ⇒A⑤⑥ (4) 気付きや疑問から、キーワード（問い）をつくることができる。□ ⇒A④⑤⑥⑦ (5) キーワード（問い）を関連付けて、大きな問いをつくることができる。□ ⇒A④⑦⑧⑨	(1) 学習問題に対して、予想を考えることができる。⇒B① (2) 自分が調べたいことを考えることができる。□ ⇒B①② (3) 学習問題を解決するために、何をどのような方法で調べるとよいか、具体的に考えることができる。□ ⇒B①②③	(1) 本時で分かったことを基に、学習問題の解決のために次から何を調べるとよいか考えることができる。□ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	(1) 調べた事実を基に、考えられることを導き出すことができる。□ ⇒C⑩⇒D①②③ (2) 資料を使って意見を述べたり、記述したりすることができる。□ ⇒D②③④⑤ (3) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えることができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦ (4) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えた上で、一番重視したい立場を選択することができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	(1) これまでに学習してきたことを基に、自分の考えをもつことができる。□ ⇒E①②③④ (2) 友達のを考えを比較・関連付け、意見を述べたり、記述したりすることができる。□ ⇒E①②③④	(1) 学習した内容から似た事象や当てはまりそうな事象がないか考えることができる。□ ⇒F④ (2) 新たに調べたいことを考えることができる。□ ⇒F①②③
主体的に学習に取り組む態度	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいか見通しをもっている。⇒B①②③⇒C①②③ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているのか理解している。⇒B①②③⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ (3) 社会的事象について、実感や切実感をもって調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ (4) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。□A①⇒F①②③④					

✓ …できていると判断した児童の姿

□ …今月実践の単元で目指す児童の姿

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
手立て	A①身近なことを題材に挙げる。□ A②資料提示の工夫（資料の一部を隠すなど）を行う。□ A③題材に対して気付きや疑問をもたせる。□ A④気付きや疑問を教師が意識的に仲間（キーワード）分けして板書する。□ A⑤気付きや疑問に対して、問い返しをしながら、児童に予想を出させる。□ A⑥自分の考えをもちやすい場面（予想など）で、自分と相手の意見が同じか違うか考えさせながら対話させる。□ A⑦気付きや疑問を基に、調べたいことを考えさせる。□ A⑧調べていきたいことを学習問題として書かせる。□ A⑨個別にもった学習問題を全体で交流し、学習問題を設定する。□	B①学習問題の解決のために何を調べるとよいかを考えさせる。□ B②調べるとよいと考えたことをグループビンゴし、何から調べたらよいか考えさせる。□ B③学習問題の解決のために何を調べるとよいか調べる方法を考えさせる。□	C①学習問題を確認する。✓ C②調べたことを図や表に表し、単元全体を見通すことができるようにする。□ C③学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる。✓ C④調べる内容（視点）を確認する。✓ C⑤調べる内容について、予想をさせる。✓ C⑥資料（写真、教科書等の文章等）を一つずつ確認し、どのようなことが分かる資料なのか考えさせる。✓ C⑦教師が指示した資料で調べさせる。□ C⑧立場ごとに、資料を分けて提示する。□ C⑨様々な資料を見せ、読み取りの視点を増やす。□ C⑩学習問題や学習課題（本時のめあて）の解決に必要な情報であるのか考えさせる。□ C⑪調べた内容をペアやグループで伝え合わせ、確認させる。✓ C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。□ C⑬学習問題について、学習課題（本時のめあて）とのつながりを考えて記述させる。□	D①事実を調べた後に、意図する問いを段階的に行う。□ D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。□ D③根拠となる資料を確認する。□ D④話し合いの目的・ゴールを示す。□ D⑤考えをペアやグループで伝え合わせる。□ D⑥視点を基に、考えをもたせる。□ D⑦視点同士を比較させ、考えをもたせる。□ D⑧まとめ方を例示する。□ D⑨キーワードを挙げる。□ D⑩まとめ方に関する判定基準を示す。□ D⑪指示物を活用し、これまでの学習を振り返らせる。□	E①単元全体のまとめ方を例示する。□ E②キーワードを挙げる。□ E③単元全体のまとめ方に関する判定基準を示す。□ E④ノートやワークシート、指示物などを活用し、これまでの学習を振り返らせる。□	F①新たな学習問題を提示する。□ F②社会的問題を含んだ資料を提示し、学習問題を設定する。□ F③ゲストティーチャーに新たな学習問題につながる情報を話してもらふ。□ F④学んだことと自分たちの生活（自分にできること）をつなげて考えさせる。□

✓ …現在取り入れていると判断した手立て

○ …今月実践の単元で取り入れることを決定した手立て

単元「明治の国づくりを進めた人々」

目指す姿（主体的に学習に取り組む態度）
今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているのか理解している。
取り入れた手立て（手引きの記号、番号）
調べることを図や表に表し、単元全体を見通すことができるようにする。（C②）

児童の行動観察の記録を基に、以下のB、Cの判定基準で評価を行った。※欠席：2名 （※指導に生かすための形成的な評価をしている。また児童のつぶやきや発言などから、「十分満足できる」状況（A）と判断できた児童に関しては、記録に残し、単元における総括の評価の参考とする。） B 授業開始時、本時に調べる内容に関わる教科書や資料集のページを開いて、目を通してしている。【30名】 C Bに達していない。【5名】
【考察】 学習問題を設定する際に出た、児童の「分からないこと」「知りたいこと」をまとめた表を教室に掲示していたため、全体の約 85%の児童が本時の学習内容が教科書のどのページかを理解して学習に取り組むことができていた。次単元以降も、C②の手立てを継続して取り入れていく。また、この追究意欲を単元を通して継続させるためにも、児童が「分からない」「知りたい」「調べたい」と挙げたことを随時想起させたり確認したりする必要がある。

目指す姿（思考・判断・表現）
調べた事実を基に、考えられることを導き出すことができる。
取り入れた手立て（手引きの記号、番号）
事実を調べさせた後に、意味を問う発問を段階的に行う。（D①） 調べた事実と考えを明確に分けさせる。（D②） 調べた内容について、問い返して、事実相互を関連付けて考えさせる。（C⑫）

児童のワークシートの記述を基に、以下のA、B、Cの判定基準で評価を行った。※欠席：2名 A 複数の調べた事実を根拠として、自分の考えを記述している。【0名】 B 調べた事実を根拠として、自分の考えを記述している。【16名】 C Bに達していない。【19名】
【抽出児の記述】 天皇の権限が強いから、天皇が治めているから。

【考察】

発問「大日本帝国憲法発布により、国民の願いは叶ったのか」に対し、叶っていない理由として「天皇が治めているから」「天皇の権限が強いから」「国民の考えた憲法の考えを聞き入れられていないから」と調べた事実を根拠として、自分の考えを記述できた児童が 16 名だった。しかし、N児のように、調べた事実を根拠として自分の考えを表現することができなかった児童が 19 名いた。児童の思考を揺さぶる発問「国民の願いは叶ったんだね？国会を開けるから」に対し、児童の中には「叶った」と記述するだけに留まった者がいた。児童の考えを数名言わせてから記述させた方が良かったと考えられる。

目指す姿（技能）

学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。

取り入れた手立て（手引きの記号、番号）

学習問題の解決のために、何を調べたらよいのかを考えさせる。（B①）

調べる資料（教科書・資料集）に一度目を通させる。（☆手引きに掲載していない手立て）

「調べること」のヒントとなる文言をワークシートに記入する。（☆手引きに掲載していない手立て）



児童のワークシートの記述を基に、以下の B, C の判定基準で評価を行った。※欠席：3 名

（※指導に生かすための形成的な評価をしている。また児童のつぶやきや発言などから、「十分満足できる」状況（A）と判断できた児童に関しては、記録に残し、単元における総括の評価の参考とする。）

B 明治維新に関わる資料について、資料が表していることを調べ、記述している。【22 名】

C Bに達していない。【12 名】

【抽出児の記述】

な？陸奥宗光
最も力の強かったイギリスを相手に交渉を行い、
ついに 1894 年、条約の一部を改正して領事裁判
権をなくすことに成功した。

【考察】

調べる資料（教科書・資料集）に一度目を通させ、「資料の名前」「何についての資料か？」「誰が？」「どのような活動？」など、児童に調べてほしいことをこちらが一問一答のように示して、その後教科書等から事実を調べさせる活動を行った。「何についての資料か？」という発問が難しかったようで、ここで時間を掛けてしまったために、調べる学習活動の時間を十分に取ることができなかった。しかし、限られた時間の中でも、N児のように、明治維新に関わる資料について、資料が表していることを調べ記述することができた児童が 34 名中 22 名いたことは良かった。ただ、教師が「この資料について調べてみてはどう？」と一方的に示した場面があり、児童にとって主体的な学びになっていたとは言い難い。児童が目的意識をもって調べることができるように、学習問題や学習計画を意識させたり、調べ学習の際には調べる内容（視点）を確認したりしていきたい。

【実践 4】11 月実践

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
知識	(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。✓⇒C①②③④⑤ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて（つなげて）、記述することができる。✓⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して（まとめて）、記述することができる。✓⇒C①②③④⑤⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺					
技能 (収集する 読み取る まとめる)	(1) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために必要な資料を集めることができる。✓⇒C①②③ (2) その資料がどのような資料に分かっている。✓⇒C⑥⑦⑧ (3) 事実を正確に読み取っている。□⇒C④⑤⑥⑦⑧ (4) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。□⇒B①⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。□⇒C⑥⑦⑧⑨⑩⑪					
思考・ 判断・ 表現	(1) 資料を基に気付きをもつことができる。□ ⇒A①② (2) 資料を基に疑問をもつことができる。□ ⇒A①②③ (3) 疑問に対して、予想をすることができる。□ ⇒A⑤⑥ (4) 気付きや疑問から、キーワード（問い）をつくることできる。□ ⇒A④⑤⑥⑦ (5) キーワード（問い）に関連付けて、大きな問いをつくることできる。□ ⇒A④⑦⑧⑨	(1) 学習問題に対して、予想をすることができる。✓ ⇒B① (2) 自分が調べたいことを考えることができる。□ ⇒B①② (3) 学習問題を解決するために、何をどのような方法で調べるとよいか、具体的に考えることができる。□ ⇒B①②③	(1) 本時で分かったことを基に、学習問題の解決のために次から何を調べるとよいか考えることができる。□ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (2) 調べた事実を基に、考えられることを導き出すことができる。□ ⇒C⑩⇒D①②③ (3) 資料を使って意見を述べたり、記述したりすることができる。□ ⇒D②③④⑤ (4) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考察することができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦ (5) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考察した上で、一番重視したい立場を選択することができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	(1) これまでに学習してきたことを基に、自分の考えをもつことができる。□ ⇒E①②③④ (2) 友達のことを比較・関連付け、意見を述べたり、記述したりすることができる。□ ⇒E①②③④	(1) 学習した内容から似た事象や当てはまりそうな事象がないか考えることができる。□ ⇒F④ (2) 新たに調べたいことを考えることができる。□ ⇒F①②③	
主体的に学習に取り組む態度	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいか見通しをもっている。□⇒B①②③⇒C①②③ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているのか理解している。✓⇒B①②③⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (3) 社会的な事象について、実感や切実感をもって調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。□⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (4) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。□A①⇒F①②③④					

✓ …できていると判断した児童の姿

□ …今月実践の単元で目指す児童の姿

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
手立て	A①身近なことを題材に挙げる。□ A②資料提示の工夫（資料の一部を隠すなど）を行う。□ A③題材に対して気付きや疑問をもたせる。□ A④気付きや疑問を教師が意識的に仲間（キーワード）分けて板書する。□ A⑤気付きや疑問に対して、問い返ししながら、児童に予想を出させる。□ A⑥自分の考えをもちやすい場面（予想など）で、自分と相手の意見が同じか違うか考えさせながら対話させる。□ A⑦気付きや疑問を基に、調べていきたいことを考えさせる。□ A⑧調べていきたいことを学習問題として書かせる。□ A⑨個別にもった学習問題を全体で交流し、学習問題を設定する。□	B①学習問題の解決のために何を調べるとよいかを考えさせる。□ B②調べるとよいか考えたことをグループで話し合ったり、何から調べたらよいか考えさせる。□ B③学習問題の解決のために何を調べるとよいか調べる方法を考えさせる。□	C①学習問題を確認する。✓ C②調べたことを図や表に表し、単元全体を見通すことができるようにする。✓ C③学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる。□ C④調べた内容（視点）を確認する。□ C⑤調べた内容について、予想をさせる。✓ C⑥資料（写真、教科書等の文章等）を一つずつ確認し、どのようなことが分かる資料なのか考えさせる。✓ C⑦教師が指示した資料で調べさせる。□ C⑧立場ごとに、資料を分けて提示する。□ C⑨様々な資料を見せ、読み取りの視点を増やす。□ C⑩学習問題や学習課題（本時のめあて）の解決に必要な情報であるのか考えさせる。□ C⑪調べた内容をペアやグループで伝え合わせ、確認させる。□ C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。□ C⑬学習問題について、学習課題（本時のめあて）とのつながりを考えて記述させる。□	D①事実を調べた後に、意味や問う発問を段階的に挙げる。□ D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。□ D③根拠となる資料を確認する。□ D④話し合いの目的・ゴールを示す。□ D⑤考えをペアやグループで伝え合わせる。□ D⑥視点を基に、考えをまとめる。□ D⑦視点同士を比較させ、考えをまとめる。□ D⑧まとめ方を例示する。□ D⑨キーワードを挙げる。□ D⑩まとめ方に関する判定基準を示す。□ D⑪掲示物を活用し、これまでの学習を振り返らせる。□	E①単元全体のまとめ方を例示する。□ E②キーワードを挙げる。□ E③単元全体のまとめ方に関する判定基準を示す。□ E④ノートやワークシート、掲示物などを活用し、これまでの学習を振り返らせる。□	F①新たな学習問題を提示する。□ F②社会的問題を含んだ資料を提示し、学習問題を設定する。□ F③ゲストティーチャーに新たな学習問題につながる情報を話してもらう。□ F④学んだことと自分たちの生活（自分にできること）とをつなげて考えさせる。□

✓ …現在取り入れていると判断した手立て

○ …今月実践の単元で取り入れることを決定した手立て

単元「世界に歩みだした日本」

目指す姿（主体的に学習に取り組む態度）	
本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいか見通しをもっている。	
取り入れた手立て（手引きの記号、番号）	
学習問題の解決のために何を調べるとよいかを考えさせる。（B①）	
↓	
児童のワークシートの記述を基に、以下のB、Cの判定基準で評価を行った。※欠席：3名 （※指導に生かすための形成的な評価をしている。また児童のつぶやきや発言などから、「十分満足できる」状況（A）と判断できた児童に関しては、記録に残し、単元における総括の評価の参考とする。） B 次時以降に調べたいことを記述している。【34名】 C Bに達していない。【0名】	
【抽出児の記述】 — … 本時の振り返りを基にした疑問	
【考察】 学習問題を意識して何を調べるとよいか、見通しをもっているかどうか判断するために、振り返りの記述に着目した。学習問題を作った際に、学習問題を解決するためにどのようなことを調べるとよいかを考えさせていたことで、全ての児童が1つ以上は次時以降に調べたいことを記述することができていた。N児の記述は、学習問題の解決のための疑問というよりも、本時のめあて（学習課題）についての疑問にとどまってはいるが、主体的に学習に取り組んでいる態度の一端が読み取れる。	

目指す姿（技能）
学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。
取り入れた手立て（手引きの記号、番号）
学習問題や（本時のめあて）を解決するために何を調べるとよいかを考えさせる。（B①）
学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる。（C③）
調べる内容（視点）を確認する。（C④）
調べる資料（教科書・資料集）に一度目を通させる。（☆手引きに掲載していない手立て）
「調べること」のヒントとなる文言をワークシートに記入する。（☆手引きに掲載していない手立て）
↓

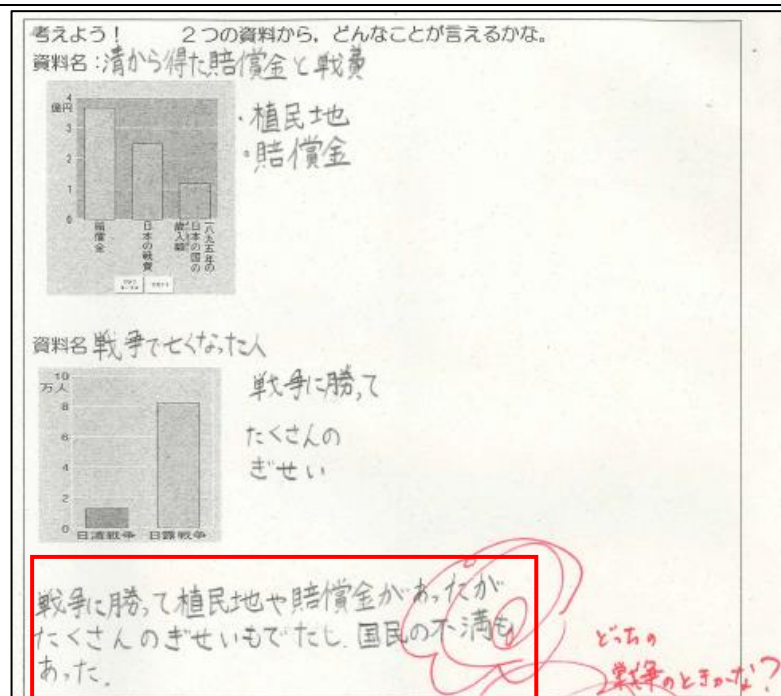
児童のワークシートの記述を基に、以下の B, C の判定基準で評価を行った。※欠席：5 名

(※指導に生かすための形成的な評価をしている。また児童のつぶやきや発言などから、「十分満足できる」状況 (A) と判断できた児童に関しては、記録に残し、単元における総括の評価の参考とする。)

B 「日清・日露戦争」に関わる資料について、資料が表していることを調べている。【32 名】

C B に達していない。【0 名】

【抽出児の記述】



【考察】

全ての児童が、「日清・日露戦争」に関わる資料について、資料が表していることを調べることができた。本単元では、B①、C③、C④の手立てに加え、学習問題を設定する際に児童がもった疑問の中から、本時で「調べること」を選び、ワークシートに記入する手立てを取り入れた。この「調べること」を基に、児童は学習問題設定時のことを想起しながら、自分たちが調べることを分かりながら、資料と関連付けて調べることができたと考える。N児は、学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取ることはできているが（**枠囲み部**）、教師のコメントのように「日清・日露戦争」のどちらのことを記述しているのか不明瞭である。今後は、読み取ったことを分かりやすく表現することができるような指導もしていく必要がある。また、児童の中には、今回のような細やかな手立てを取り入れずとも、自力で調べ学習を進めることができる児童もいる。今後はできるだけ自分の力で時間内に調べていけるように、個別に「どのあたりを読むと資料について分かりそうか」など対応をしていく必要がある。

目指す姿（思考・判断・表現）

調べた事実を基に、考えられることを導き出すことができる。

取り入れた手立て（手引きの記号、番号）

事実を調べさせた後に、意味を問う発問を段階的に行う。（D①）

調べた事実と考えを明確に分けさせる。（D②）

調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。（C⑫）



児童のワークシートの記述を基に、以下の A, B, C の判定基準で評価を行った。※欠席：3 名

A 調べたこと的事实を相互に関連付けて、自分の考えを記述している。【6 名】

B 調べたことを基に、自分の考えを記述している。【25 名】

C B に達していない。【3 名】

【抽出児の記述】

日本語の教育を受けることになり、朝鮮の歴史は教えられずに、また、土地の制度も変えられ、韓国の人は独立運動を粘り強く行った。

【考察】

韓国が併合され、日本語の教育を受けさせられたり、土地制度を変えられて土地を失ったりしたこと、そのために朝鮮の人が独立運動を行ったことを調べたり考えたりした。34 名中 31 名の児童が「韓国を併合した」「日本語の教育」「土地制度が変えられる」「独立運動」などの事実を基に自分の考えを記述することができていた。これまで継続して取り入れてきた D②の手立て「調べた事実と考えを明確に分けさせる」や C⑫の手立て「調べた内容について、問い返して、事実相互に関連付けて考えさせる」が効果的に機能していると考ええる。しかし、N児の記述を読むと、韓国の人が独立運動を粘り強く行った理由については明確には述べられておらず、事実相互の関連付けは十分ではないことが分かる。日本政府の不当な対応のために独立運動を行ったと関連付けをしていた児童は 6 名であった。これからも、「なぜそのようなことをしたのでしょうか?」「朝鮮の人々はどのような思いだったのでしょうか?」などと、D①の手立て「事実を調べさせた後に、意味を問う発問を段階的に行う」を継続的に取り入れていきたい。

【実践 5】12 月実践

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
知識			(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。⇒C①②③④⑤ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて（つなげて）、記述することができる。⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⇒D①⑧⑨ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して（まとめて）、記述することができる。⇒C①②③④⑤⇒D①⑧⑨⑩⇒E①②③④			
技能 (収集する 読み取る まとめる)			(1) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために必要な資料を集めることができる。⇒C①②③ (2) その資料がどのような資料に分かっている。⇒C⑥⑦⑧ (3) 事実を正確に読み取っている。⇒C④⑤⑥⑦⑧ (4) 学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。⇒B①⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。⇒C⑥⑦⑧⑨⑩			
思考・ 判断・ 表現	(1) 資料を基に気付きをもつことができる。□ ⇒A①② (2) 資料を基に疑問をもつことができる。□ ⇒A①②③ (3) 疑問に対して、予想を考えることができる。□ ⇒A⑤⑥ (4) 気付きや疑問から、キーワード（問い）をつくることができる。□ ⇒A④⑤⑥⑦ (5) キーワード（問い）を関連付けて、大きな問いをつくること ができる。□ ⇒A④⑦⑧⑨	(1) 学習問題に対して、予想を考えることができる。⇒B① (2) 自分が調べたいことを考 えることができる。□ ⇒B①② (3) 学習問題を解決するた めに、何をどのような方法で 調べるとよいか、具体的に 考えることができる。□ ⇒B①②③	(1) 本時で分かったことを基 に、学習問題の解決のために 次から何を調べるとよいか考 えることができる。□ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	(1) 調べた事実を基に、考えら れることを導き出すことがで きる。□ ⇒C⑩⇒D①②③ (2) 資料を使って意見を述べた り、記述したりすることがで きる。□ ⇒D②③④⑤ (3) 様々な立場や視点ごとに、 メリット・デメリットを考 えることができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦ (4) 様々な立場や視点ごとに、 メリット・デメリットを考 えた上で、一番重視したい立 場を選択することができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	(1) これまでに学習してき たことを基に、自分の考 えをもつことができる。□ ⇒E①②③④ (2) 友達のを考えを比較・関 連付け、意見を述べたり、 記述したりすることがで きる。□ ⇒E①②③④	(1) 学習した内容から似た事 象や当てはまりそうな事 象がないか考えることが できる。□ ⇒F④ (2) 新たに調べたいことを考 えることができる。□ ⇒F①②③
主体的に学 習に取り組 む態度	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいか見通しをもっている。⇒B①②③⇒C①②③ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているのか理解している。⇒B①②③⇒C①②③④ (3) 社会的現象について、実感や切実感をもって調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ (4) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。□A①⇒F①②③④					

✓ …できていると判断した児童の姿

□ …今月実践の単元で目指す児童の姿

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
手 立 て	A①身近なことを題材に挙げる。 □ A②資料提示の工夫（資料の一部 を隠すなど）を行う。□ A③題材に対して気付きや疑問をも たせる。□ A④気付きや疑問を教師が意識的 に仲間（キーワード）分けて 板書する。□ A⑤気付きや疑問に対して、問い返 しをしながら、児童に予想を出さ せる。□ A⑥自分の考えをもちやすい場面 （予想など）で、自分と相手の 意見が同じか違うか考えさせな がら対話させる。□ A⑦気付きや疑問を基に、調べてい きたいことを考えさせる。□ A⑧調べていきたいことを学習問題 として書かせる。□ A⑨個別にもった学習問題を全体 で交流し、学習問題を設定す る。□	B①学習問題の解決のために何を 調べるとよいかを考えさせる。 □ B②調べるとよいか考えたことをグル ーピングし、何から調べたらよ いか考えさせる。□ B③学習問題の解決のために何を 調べるとよいか調べる方法を 考えさせる。□	C①学習問題を確認する。✓ C②調べたことを図や表に表し、単 元全体を見通すことができるよ うにする。✓ C③学習問題と学習計画を教室 内に掲示し、常に振り返らせ る。□ C④調べた内容（視点）を確認す る。□ C⑤調べる内容について、予想をさ せる。□ C⑥資料（写真、教科書等の文章 等）を一つずつ確認し、どのよ うなことが分かる資料なのか考 えさせる。✓ C⑦教師が指示した資料で調べさ せる。□ C⑧立場ごとに、資料を分けて提 示する。□ C⑨様々な資料を見せ、読み取り の視点を増やす。□ C⑩学習問題や学習課題（本時 のめあて）の解決に必要な情 報であるのか考えさせる。□ C⑪調べた内容をペアやグルー プで伝え合わせ、確認させる。✓ C⑫調べた内容について、問い返 して、事実を相互に関連付け て考えさせる。□ C⑬学習問題について、学習課題 （本時のめあて）とのつながり を考えて記述させる。□	D①事実を調べた後に、意図を問 う疑問を段階的に行う。□ D②調べた事実と考えを明確に 分けさせる。□ D③根拠となる資料を確認する。 □ D④話し合いの目的・ゴールを示 す。□ D⑤考えをペアやグループで伝え 合わせる。□ D⑥根拠を基に、考えをもたせる。 □ D⑦視点同士を比較させ、考えを もたせる。□ D⑧まとめ方を例示する。□ D⑨キーワードを挙げる。□ D⑩まとめ方に関する判定基準を 示す。□ D⑪掲示物を活用し、これまでの 学習を振り返らせる。□	E①単元全体のもつめ方を 例示する。□ E②キーワードを挙げる。□ E③単元全体のもつめ方に 関する判定基準を示 す。□ E④ノートやワークシート、掲 示物などを活用し、これ までの学習を振り返らせ る。□	F①新たな学習問題を提示す る。□ F②社会的問題を含んだ資料 を提示し、学習問題を設 定する。□ F③ゲストティーチャーに新た な学習問題につながる情 報を話してもらい、□ F④学んだことと自分たちの主 張（自分のできること）とを つなげて考えさせる。□

✓ …現在取り入れていると判断した手立て

○ …今月実践の単元で取り入れることを決定した手立て

単元「新しい日本，平和な日本へ」

目指す姿（技能）
学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。
取り入れた手立て（手引きの記号，番号）
学習問題の解決のために何を調べるとよいのかを考えさせる。（B①） 学習問題と学習計画を教室内に掲示し，常に振り返らせる。（C③） 調べる内容（視点）を確認する。（C④）

児童のワークシートの記述を基に，以下の B，C の判定基準で評価を行った。※欠席：3 名 （※指導に生かすための形成的な評価をしている。また児童のつぶやきや発言などから，「十分満足できる」状況（A）と判断できた児童に関しては，記録に残し，単元における総括の評価の参考とする。） B 終戦後に関わる資料について，資料（写真）が表していることを記述している。【34 名】 C B に達していない。【0 名】
【抽出児の記述】欠席のため，データなし
【考察】 全員が，日本がサンフランシスコ平和条約を結び国際社会へ復帰していくことに関して，「海外との関係」ということを理解しながら，資料（写真）から読み取れることを記述することができていた。学習問題を設定する際，本単元で調べていくことを「海外との関係」「決まり」「国内のこと」に分けて示し，毎時間 C④の手立て「調べる内容（視点）を確認する」を行ったことで，本時が「海外との関係」と分かって調べることができたと考えられる。学習問題や学習課題（本時のめあて）を解決するために有用な情報を選んで読み取らせるために，本単元で取り入れた B①，C③，C④の手立ては効果的であったと考える。

目指す姿（思考・判断・表現）
調べた事実を基に，考えられることを導き出すことができる。
取り入れた手立て（手引きの記号，番号）
事実を調べた後に，意味を問う発問を段階的に行う。（D①） 調べた事実と考えを明確に分けさせる。（D②） 調べた内容について，問い返して，事実を相互に関連付けて考えさせる。（C⑫）

児童のワークシートの記述を基に，以下の A，B，C の判定基準で評価を行った。※欠席：2 名 A 調べたことの事実関係を関連付けて，自分の考えを記述している。【4 名】 B 調べたことから，自分の考えを記述している。【30 名】 C B に達していない。【1 名】
【抽出児の記述】 平和で差別のない世の中になるため。

【考察】

戦後の改革について調べた後、「何のためにこのような改革が行われたのか」と発問した。ほぼ全員が、戦後の改革の目的をそれぞれ記述することができていた。また、N児を含む4名の児童は「平和な国」「差別のない国」など、これまで調べてきた改革の目的を関連付けて自分なりの言葉で記述することができた。9月の実践から、児童が調べた事実を基に考えを導くことができるように、C⑫の手立て「調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる」を継続的に取り入れてきた。9月の実践では、事実から飛躍して自分の考えを記述している児童も多くいたが、3か月間の実践を経て、ほぼ全員が事実に基づいて自分の考えを記述することができていた。よって、C⑫の手立ては効果的だと考え、手引きに追加することにした。

目指す姿（主体的に学習に取り組む態度）

調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。

取り入れた手立て（手引きの記号、番号）

視点を基に、考えをもたせる。(D⑥) (※手引きの指示にない手立て)

学んだことと自分たちの生活（自分にできること）とをつなげて考えさせる。(F④)



児童のワークシートの記述を基に、以下のA、B、Cの判定基準で評価を行った。※欠席：2名

A 一つの事象に対して、複数の視点から考えて記述している。【22名】

B 一つの事象に対して、1つの視点から考えて記述している。【13名】

C Bに達していない。【0名】

【抽出児の記述】

東日本大震災について、環境の視点で考えると津波などでいろいろなものが壊されたり流されたりして環境が壊されたと考えます。人権の視点で考えると、震災は東日本あたりであり、全国であったわけではないので、被害に遭った人々はきっと怖かっただろうし、心配になったりしたと思います。けれども、その人たちを差別する人がいるのは、いけないことだと考えました。

【考察】

「三重津海軍所と有明沿岸道路」「東日本大震災の復興」「東京オリンピック 2020」について、様々な視点で考えさせた。前時の高度経済成長と公害の学習内容を振り返った後、3つのニュースについて、数名の児童に意見を言わせ視点を導き出した。35名中22名の児童が、N児のように複数の視点を基に自分の考えを記述することができていた。しかし、自分はどうしていききたいかという自分の意見まで書けた児童はその内2名であった。3つのニュースについて、自分との関係について考えさせることができていないため、自分の意見をもたせるまでには至らなかったと考える。また、「環境」「経済」などの視点について捉え方が曖昧である児童が多く存在し、記述内容が問題にしたいことからずれている児童も存在した。6年生という発達の段階を考えると、日頃から身近なニュースを取り上げ、ニュースについて考えを記述させるなどの手立てをとっていく必要がある。



1 月実践へ

最後に全 6 回の研究委員会を終え、6 月から 12 月までの質的改善の日々を振り返った C 先生の記述を紹介します。

学習指導要領をじっくりと読み、授業の質的改善を図るという経験は貴重な研修の機会となりました。このような経験ができたことは大変有り難いことでした。子供たちと授業を重ねていくうちに、子供たちの学びに向かう姿が変わってきたことを実感としてもつことができました。目の前の子供たちにこれからも自身の学びを返していけるように、自己研さんを怠らず努力をしていきたいと思います。

